

平成 22 年 6 月 25 日現在

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2006～2009

課題番号：18202007

研究課題名（和文） 日本文学の国際的共同研究基盤の構築に関する調査研究

研究課題名（英文） RESEARCH STUDIES FOR A CONSTRUCTION OF THE FOUNDATION OF THE INTERNATIONAL COOPERATIVE STUDIES OF JAPANESE LITERATURE

研究代表者

伊藤 鉄也（ITO TETSUYA）

国文学研究資料館・文学形成研究系・教授

研究者番号：10232456

研究成果の概要（和文）：本課題は、日本文学に関する情報を所有する海外の機関や研究者を確認し、どのような情報が収集・利用されているか、またはどのようなテーマで研究がなされているかを解明することにある。そのために、日本文学や文化に特化したものを集積・分析し、諸外国の研究者相互の連携を推進し、情報網を広げ、質の高い研究情報を蓄積し、国内外の研究者へ提供してきた。国際集会の開催、刊行物「日本文学研究ジャーナル」第1～4号の作成はその成果の具体的な証である。

研究成果の概要（英文）：The aim of this study is to reveal, by confirming foreign organizations and researchers who own information on Japanese literature, what information have been collected to use and on what themes the researches have been done in foreign countries. We have thus accumulated and analysed those related to Japanese literature and culture, have promoted mutual cooperation between foreign researches, expanded information networks, stored up high-quality research information, and offered them to Japanese and foreign researchers. The concrete evidences of the results can be found in hosting international meetings and publishing "Japanese Literature Research Journal" vol.1-4.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	10,400,000	3,120,000	13,520,000
2007年度	7,100,000	2,130,000	9,230,000
2008年度	8,600,000	2,580,000	11,180,000
2009年度	10,500,000	3,150,000	13,650,000
年度			
総計	36,600,000	10,980,000	47,580,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：(1) 日本文学 (2) 国際化 (3) 日本文学翻訳 (4) 文化交流史

(5) 日本文学国際集會 (6) 翻訳論 (7) 日本文学研究ジャーナル

1. 研究開始当初の背景

(1) 日本文学は、世界文学の中に位置づけられる時代となった。従来、海外における研究成果は、日本の側ではあまり高く評価をしてこなかった。外国人に日本文学の神髄が判るか、という風潮は今では少なくなったにせよ、そのレベルはまだまだ低いものだとして、真正面から評価することを避けてきた傾向がある。

(2) しかし、日本文学は多言語による理解がなされる時代となった。この分野の情報整理と共有資源の提供、及び共同研究という場の設定は、今後の日本文学への理解と研究において、各国との文化交流の上においても重要な役割を果たすと確信する。

(3) ここで収集する情報群は、世界各国の様々な分野における日本文学の本質理解への一助となり、日本国内の研究にも多面的な刺激を与えるものとなるはずである。

2. 研究の目的

(1) 本研究課題は、海外における日本文学研究の情報を集約して継続的に情報収集・整理・発信を手がけ、共同研究を推進し、研究の土台を常に築いておくことである。

(2) そこで、その情報をもとにした海外における研究史の整理を行なう。また、日本文学研究者の視点から、翻訳書群には解題を付け、研究者や機関とは実際に接触を図ることによって、情報の精度を上げ、継続して追跡できるものとする。

(3) 海外の研究者との様々な現代の課題を

共有化しながら、コラボレーションを促進し、今後とも増大する情報の収集・整理の基盤を確立することを目指す。

3. 研究の方法

(1) 共同研究

海外における日本文学の翻訳書に関する解題の作成と研究【平成18・19・20・21年度】

(2) 調査収集から情報発信へ

海外における日本文学研究調査、および研究史、文化交流史に関する研究【平成20・21年度】

(3) 情報交換

①海外とのコラボレーションによる情報交換と研究資源の共有【各年度毎に逐次実施】

②テーマ別国際研究集会の開催【国内：平成18・20年度、海外：平成19・21年度】

4. 研究成果

(1) 平成18年度は、

①日本文学翻訳研究書総覧（事典）の作成。日本文学作品研究について、共同研究を進めることによって、英文による翻訳リスト（約800点）を作成し、関連資料の購入も進めた。以降は、このリストを増補整理するとともに、具体的に書目の執筆を分担し、翻訳事典の作成に向かって原稿を蓄積していく。なお、翻訳に関する海外の情報については、国際交流基金とも連携を図っている。

②海外における日本文学研究調査及び文化交流史。海外における日本文学研究の実態調査として、サンクトペテルブルグ大学、北京外国語大学等において学生のアンケート調

査をして集計するとともに、「日本文学の先駆者たち」のテーマのもとでドナルド・キーン、ロイヤル・タイラー、除一平、タチアーナ氏他との対談を実施し、今後の海外における日本文学研究のありようをまとめた。また、100年前に日本を訪れて日記を残したゴードン・スミス作品について、内容の調査等を進め、その成果は論文としてもまとめた。

③共同研究と情報発信。共同研究のメンバーが研究会（3回）を実施し、内容の討議、研究発表を行った。人間文化研究機構主催の「国際的相関研究のありか」とゆくえ（2007年3月、グランキューブ大阪）では、その成果の一部の研究発表をした。また、研究成果をまとめた研究誌「日本文学研究ジャーナル」を創刊した。これは、国際的な情報発信に留意して、デザイン性を重視した編集を心がけて製作したものである。

(2) 平成19年度は、

①日本文学翻訳研究書総覧（事典）の作成。日本文学作品研究について、共同研究を進めることによって、前年度に一応まとめた英文による翻訳書リスト（およそ800点）に基づき、具体的に書目の執筆を各自分担し、本年度はその一部を活字化して報告した（「日本文学研究ジャーナル」第2号掲載）。

②海外における日本文学研究調査及び文化交流史。海外における日本文学研究の実態調査及び交流を実施した。具体的にはタイ国チュラロンコーン大学主催による国際日本文学研究集会への参加と講演、研究発表、またハーバード大学との研究交流を推進した。また、ゴードン・スミスの日本滞在の記録を著書としてまとめ、日本国内における足跡の調査も進めた。

③共同研究と情報発信。共同研究のメンバーによる研究会のほか、著書、論文、また国際

学会等での講演、研究発表を積極的に進め、その成果の一部は「日本文学研究ジャーナル」第2号に掲載した。

(3) 平成20年度は、日本文学の翻訳研究書解題と海外における日本文学研究調査及び文化交流史をテーマとしながら、それに関係する日本文学の研究調査の発表を推進した。

①『世界が読み解く日本』は、徐一平（中国）、ロイヤル・タイラー（オーストラリア）、ボナヴェントゥーラ・ルペルティエ（イタリア）、ウィリアム・ボート（オランダ）、ドナルド・キーン（アメリカ）、タチアーナ・サカロヴァ・デリュシナ（ロシア）、セップ・リンハルト（オーストリア）、ジャクリーヌ・ピジュー、アンヌ・バヤール坂井（フランス）、アンドリュー・ガーストル（イギリス）の10人の研究者と対談し、諸外国における日本研究の歴史、意義等をまとめた。これによって、海外における日本文学及び日本研究の歴史的背景、今後のあり方なども知る貴重な資料となった。

②明治20年代以降、積極的に海外へ日本文化の発信として、チリメン本以降に小川一眞による写真版と英文記述による日本の風俗習慣等を刊行した実態と、その内容について考察した。この調査は、国内のほか、オランダ民俗学博物館、アムステルダム国立印刷図書館等の資料調査の成果による。

③2008年は源氏物語千年紀でもあるため、京都にその委員会が発足すると同時に研究代表者の伊井が委員となり、11月1日から4日まで、京都国際会議場、金剛能楽堂において国際集会を企画し、諸外国から研究者が参集して研究発表会、シンポジウムを開催するとともに、本科研費の成果も反映させることができた。この源氏物語千年紀に関しては、そ

れ以外にも年間を通じて各種の講演会、シンポジウム等に出席し、海外の研究者とも連携しながら、日本文化の普及にも尽力した。それらと研究協力者等の成果の一部は、「日本文学研究ジャーナル」第3号に収載した。

(4) 平成21年度は、本科研の研究代表者であった伊井春樹が、2009年3月をもって国文学研究資料館の館長職を任期満了で退職したため、研究分担者であった伊藤鉄也が研究代表者を引き継いだ。4年間のさまざまな試みや、情報の収集と整理、国際的な日本文学研究の現状のとりまとめなどを中心として、文学に縛られない視点で取り組んだ。

①研究目的である「世界各国における日本文学研究の実態調査に基づき、さらに新しい研究領域を展開し、創成すること」を改めて再確認した。

②海外における研究史や、海外の研究者との様々な課題を共有化しながらコラボレーションを促進する中で研究を深めてきた。これまでに築きあげた活動実績が、さらに展開できる基盤整備を検討した。

③海外とのコラボレーションによる情報交換と研究資源の共有の集大成として、2009年9月に、英国・ケンブリッジ大学（ロビンソンカレッジ）において国際研究集会を行った。海外における日本文学の研究状況を共同研究の成果として披露した。

④「日本文学研究ジャーナル」第4号を刊行。情報の公開と発信の一助とするものである。

「文化の交流」「最前線」「レポート」、「翻訳事典（上代～近世編）」の項目を立て、海外の日本文学の現状と最新の成果を収録した。特に「翻訳事典」においては、江戸時代（前近代）までの文学作品で、かつ英語に翻訳されたもの約80点を対象として、一点ずつに詳細な解題を付した。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計14件）

- ①伊井春樹、リチャード・ゴードン・スミス の見た中国、日本文学研究ジャーナル、4号、査読無、2010、9-28
- ②伊藤鉄也、傍記混入の実態から見える源氏物語諸本の位相―「常夏」の場合―、物語の生成と受容、国文学研究資料館、5号、査読無、2010、8-42
- ③鈴木淳、北斎絵入り狂歌春興帖『花の兄』の紹介と翻刻、『江戸のみやび』（岩波書店）、査読無、2010、172-206
- ④スーザン・ブレイクリー・クライン著、荒木浩編訳、政治的寓意としての能―「白楽天」をめぐる一、大阪大学文学研究科紀要、50号、査読無、2010、29-68
- ⑤伊井春樹、源氏物語のことばと物語の展開、日本語学、明治書院、2010年1月号、査読無、2009、4-19
- ⑥入口敦志、『帝鑑図説』の読まれかた―『帝鑑評』を中心に―、成城文藝、209号、査読有、2009、60-81
- ⑦スティーヴン・G・ネルソン、蘇る平安の音、越境する雅楽文化（書肆フローラ）、査読無、2009、107-128
- ⑧伊井春樹、海外へ発信した日本の情報―明治日本の姿―、日本文学研究ジャーナル、3、査読無、2009、15-34
- ⑨伊藤鉄也、海を渡った古写本『源氏物語』の本文、日本文学研究ジャーナル、3、査読無、2009、103-132
- ⑩伊藤鉄也、荒木浩、翻訳事典、日本文学研究ジャーナル、3、査読無、2009、157-193
- ⑪入口敦志、唐冠人物の来歴―和刻本における中国像の造型、日本文学研究ジャーナル、

3、査読無、2009、59-78

- ⑬ スティーヴン・G・ネルソン、文字譜の歴史 —中国から日本へ—、仏教音楽に聞く漢字音—梵唄に古韻を探る、査読無、2009、81-121
- ⑭ 伊藤鉄也、源氏物語本文の伝流と受容に関する試論、源氏物語の新研究、査読無、2008、43-84
- ⑮ 伊井春樹、Didactic Reading of The Tale of Genji: Politics and Women's Education, "Enrisoning The Tale of Genji", Columbia University Press、査読無、2008、157-170

[学会発表] (計 13 件)

- ① 伊藤鉄也、源氏絵の索引試案、インド日本文学会、2010年2月12日、国際交流基金・ニューデリー日本文化センター
- ② 荒木浩、非在する仏伝—インドから観る『源氏物語』—ケンブリッジ大学・日本文学研究集会・横断する日本文学、2009年9月21日、ケンブリッジ大学
- ③ 伊井春樹、大沢本源氏物語の本文の変容—ケンブリッジ大学・日本文学研究集会・横断する日本文学、2009年9月21日、ケンブリッジ大学
- ④ 伊藤鉄也・大内英範、日本古典籍分類表の活用とコーニツキー版ユニオンカタログの新展開、日本関係資料専門家欧州協会主催、第20回日本資料専門家欧州協会 (EAJRC) 年次会議、2009年9月17日、セインズベリー日本芸術研究所主催・日本関係資料専門家欧州協会、イギリス・ノリッジ
- ⑤ スティーヴン・G・ネルソン、The history of the musical realization of kōshiki texts: From planned improvisation to standardized sectarian versions.、13th

Asian Studies Conference Japan、2009年6月21日、Sophia University (Tokyo)

- ⑥ 入口敦志、夢の変容—下天托胎場面における吹き出し型の夢—、九州大学国語国文学会、2009年6月7日、九州大学
- ⑦ 鈴木淳、美術意匠としての日本絵本、ハーバード大学日本文学研究集会、2008年11月22日、ハーバード大学
- ⑧ 入口敦志、師宣の雲—飾り枠小考—、ハーバード大学日本文学研究集会、2008年11月22日、ハーバード大学
- ⑨ 荒木浩、夢の形象、物語のかたち—『清盛斬首の夢』を端緒に、ハーバード大学日本文学研究集会、2008年11月22日、ハーバード大学
- ⑩ 伊藤鉄也、ハーバード大学蔵『源氏物語』の本文、ハーバード大学日本文学研究集会、2008年11月21日、ハーバード大学
- ⑪ 伊井春樹、源氏物語のダイジェスト化の方法と絵画化、ハーバード大学日本文学研究集会、2008年11月21日、ハーバード大学
- ⑫ 海野圭介、ハーバード大学蔵伝後二条天皇筆『八雲御抄』(藤波切)について、ハーバード大学日本文学研究集会、2008年11月21日、ハーバード大学
- ⑬ スティーヴン・G・ネルソン、Murder and the transmission of secret pieces in the Heian Insei period.、12th EAJIS International Conference、September 23 2008、Lecce (Italy)

[図書] (計 7 件)

- ① 伊藤鉄也、国文学研究資料館、日本文学研究ジャーナル、第4号、2010、303
- ② 伊井春樹、宇治市源氏物語ミュージアム、図録『幻の写本—大澤本源氏物語』2009、62
- ③ 伊井春樹、国文学研究資料館、日本文学研

究ジャーナル、第3号、2009、217

- ④伊井春樹、角川学芸出版、源氏物語国際フォーラム集成、2009、420
- ⑤伊井春樹、国文学研究資料館、日本文学研究ジャーナル、第2号、2008、254
- ⑥伊井春樹、学燈社、世界が読み解く日本—海外における日本文学の先駆者たち、2008、264
- ⑦伊井春樹、国文学研究資料館、日本文学研究ジャーナル、第1号、2007、222

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊井 春樹 (II HARUKI)

国文学研究資料館・館長

研究者番号：50036175

(H21→:連携研究者)

伊藤 鉄也 (ITO TETSUYA)

国文学研究資料館・文学形成研究系・教授

研究者番号：10232456

(H21)

(2) 研究分担者

伊藤 鉄也 (ITO TETSUYA)

国文学研究資料館・文学形成研究系・教授

研究者番号：10232456

(H21→研究代表者)

鈴木淳 (SUZUKI JUN)

国文学研究資料館・文学資源研究系・教授

研究者番号：40162953

入口敦志 (IRIGUCHI ATSUSHI)

国文学研究資料館・文学資源研究系・助教

研究者番号：80243872

荒木浩 (ARAKI HIROSHI)

大阪大学・文学研究科・教授

研究者番号：60193075

(H20→H21:連携研究者)

海野圭介 (UNNO KEISUKE)

ノートルダム清心女子大学・文学部・講師

研究者番号：80346155

(H20→H21:連携研究者)

ネルソン・スティーヴン・G

法政大学・文学部・教授

研究者番号：60326171

(H20→H21:連携研究者)

(3) 連携研究者

()

研究者番号：